WEEKLY 2022 －

Rotary 伊那ロータリークラブ

事務所　伊那市西町5016-2　℡(72)0077　例会日　毎週木曜日　会場くぬぎの杜　℡(78)1121
会長 荒木康雄　幹事 向山賢悟　会報委員長 唐木　拓　第２９８８回 例会2023.5.11　No.1649

イマジン ロータリー

2022-23 年度 RI テーマ

IMAGINE　ROTARY

ソ　ン　グ　君が代・奉仕の理想

会 長 談 話　荒木康雄会長

新緑の野山に萌え、爽やかな風を心地よく感じる良い季節を迎えています。イギリスに伝わる言葉に「3 月の風と 4 月の雨が 5 月の素晴らしい天候をつくる」とあります。いかにもイギリスらしい気候を表現していて言い得て妙ですが、日本でも 5 月は一年の中でも大変気候の良い月です。

さて、5 月 8 日より日本における新型コロナウイルスが感染症法の 5 類に移行され、基本的な行動制限がなくなり個人の自主判断に委ねられました。また、5 月 5 日に WHO が新型コロナウイルスの「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」の宣言を終了すると発表し、これにより 2020 年 1 月以来およそ 3 年 3 カ月に亘って出されていた国際的な緊急事態宣言の終了が決まり、世界の新型コロナ対策は大きな節目を迎えたことになります。日本でも GW の人出が多かったようですが、現実にはコロナウイルスが消滅した訳ではないので、個人責任で引き続き注意が必要かと思われます。3 年前の 3 月 29 日に、「志村けん」がコロナウイルスに感染して亡くなり、日本人がコロナウイルスの恐ろしさを強く意識するきっかけとなりました。彼の著書に「志村流」という人生観を書いた本があり、3 年前に彼を偲んで読みました。その中に「人の一生を一日に例えると」という内容があって印象に残っています。少し前の著書なので現在とは少し時間軸が異なりますが、現在の人生 100 年超え時代に換算し一日 24 時間を一生に当てはめてみると、1 時間は約 4.5 歳に相当します。その計算でいきますと朝の 6 時は 27 歳、午前 9 時が 40.5 歳、昼 12 時が 54 歳、午後 3 時が 67.5 歳、午後 6 時が 81 歳、午後 9 時が 94.5 歳に当たります。私は現在 67 歳ですので午後 3 時ということになります。最近疲れが取れにくいとかゴルフの飛距離が落ちたとか歳のせいにしていましたが、午後 3 時ではアフター5 で飲みに行くにも早すぎる時間で、もっと活動的に行動しなければならない歳だと改めて思わされました。人の一生を 24 時間に当てはめてみると、それぞれ今のこの時間この歳を大切にしなければならないと思えてくるので不思議です。たまには一生を一日に当てはめてみて今自分は何時に当たるかを考えてみるのは如何でしょうか？

誕　生　祝

坂井清彦・原田和愛・小松大介郎

結婚記念日祝

小林孝行・岩附　宏・登内豊明

在　籍　祝

下枝正一(29)・山田　益(23)
向山賢悟(7)・本郷一博(4)

幹 事 報 告　別紙をご覧ください

理事会報告

1. 5 月のプログラム 2. 観桜会収支報告
これら全て承認された。

委員会報告　雑誌紹介

○5 月号「ロータリーの友」　下枝正一副会長

横組み P8～青少年奉仕月間の特集。
青少年交換プログラムの参加をきっかけにリーダーとなった起業家 3 人と、これから派遣される次世代のリーダー 1 人を紹介。

縦組み P4～8 富山県新湊 RC 創立 50 周年記念講演で、中学生を対象に東京大学医学部の教授の織田克利氏が自身の東大入学、医師になる経験を元に「その可能性開く、閉ざす」の講演内容が記載されている。

出 席 報 告 会員数 56 名　内出席免除者 19 名
出席者 34 名　事前メーキャップ0名　出席率80.95%

ニコニコボックス

・荒木康雄　増田清会員卓話をお願いします。
・増田　清　卓話を仰せつかいました。新工場完成間近です。
・中曽根隆文　伊那支店が営業再開しました。
・在籍祝

ラッキー賞
・山崎秀亮・吉澤祥文
・下枝正一・中山一郎
・平澤泰斗・唐木　章
・赤羽弘之

会 員 卓 話

㈱マスダ　増田　清会員
演題-「私の職業奉仕」

私は６年前に息子に社長を譲り、現在は会長です。当社は１９６２年創業以来、顕微鏡、医療機器(内視鏡、外科用医療機器）光学機器の部品加工組立です。株式会社マスダを中心に、有限会社増田精機、イナマイクロオプトコーポレーション、 ㈱マスダの中に精密加工を中心とする職場、シートメタル事業部と食品事業部が有ります。 海外の工場ですが、通常ＩＭＯと呼んでいます。(フィリピン、セブ島)に有ります。一貫生産主に加工から組立までを基本でやっています。その他にも「宮田とうふ工房」と言う名称で食品事業地元産大豆を使用しての食品作り、板金工場、、金属の板材を曲げたり溶接をしたり専用機に使用する制御盤の製造を主に展開をしています。今回１９００㎡の新工場を建設していますが、大きな工場を作っていますねー、と言われます。現状が狭く危険な事と、社員が全員集まれる場所が無かった、福利厚生の充実を考えて建設に踏み切りました。他に「豆腐を利用したヘルシーなランチ」を希望者には会社で応分に負担して食べて頂きます。

医療、光学機器を中心とした生産需要拡大と更なる事業成長を見据え、生産増強・環境改善福利厚生の充実を目的に、新工場建設に踏み切りました、完成間近の、新工場を機に社員一同、より一層の成長発展と地域への貢献を計りより良い工場作りにと考えています。

現在は２５０名がフィリピンでの工場で作業をして、約４０名は常に日本のマスダで実習生として働いています。現在それぞれ、それなりに役目をもって仕事をしています。全員が日本で働きたいと言う気持ちが強く１チーム２年～３年間隔で日本での働きを夢見ています。フィリピン人は、海外で働き良い待遇をもらって戻り家計を助けたいとの気持ちが非常につよく、子供の学費、病人の医者代、家の修繕費等現状の待遇では、ご飯も腹いっぱい食べられない人もいます。フィリピンでは、１０人に一人が海外に移住し、ＧＤＰ約１０％が海外からフィリピンへの送金です。日本で働くフィリピン人も数多く存在し、厚生省が発表した「外国人雇用状況」の届状況によると、日本で働いているフィリピン人は約１８万人だそうです。フィリピン生産年齢人口 国際連合の人口統計を見ると、フィリピンの生産年齢人口(年齢別人口の内、生産活動の中核をなす年齢人口層を指し、日本では１５歳以上６５歳未満の人口がこれに該当します） 増加率は、アジアの新興諸国の中でも突出しており、２０８０年まで増加を続け、その頃の生産年齢人口は今の倍にまで増加していると予測されます。

現在、日本は円安で目減りがひどく、あまり喜ばれていません。この様な事が長く続くと大きな問題に成ります。国際的人材獲得競争で日本は「選ばれない国」に成りつつあります。現在フィリピンは成長過程です。相変わらず建築ラッシュで、コンドミニアム(日本のマンション)があちこちで建設されています。人口も２０００年フィリピンに足を踏み入れた当時は７０００万人と言われていますが、昨年の報告では、１億１千５百万人と聞いています。２０年で４５００万人増えていて、目覚ましい勢いです。スーパー、デパート等の建設もすさまじく、又会員制のマーケットなども増えていて、買い物をする人には、そこへ行くとカード１枚ですべての物が購入できガソリンスタンドまで完備しています。日本より進んでいる面も沢山あります。又内需購買欲もすごく、一般的なスーパーに行って買い物をすると、レジでの支払いで時間が掛かり大変です。「日本では小さなカゴで１カゴか２カゴ」ですが、多くの人が手押し車に一杯買い込んでいる客が非常に多いです。 購買欲がものすごい目玉商品は、コンテナに山ほど入れてレジの近くに置いてあります。

現在の日本は真逆で家族も少なく消費する量も、けた違いで商品も出来るだけ少量で小さく少なめの包装で安くしないと買ってもらえない、此れだけを見ても少子化による経済の後退すなわち国力の後退に繋がっているのだと考えさせられます。少子化と言う物は国力を落としてしまう、それを補える方策を立てないと日本が世界の中で、国力が年々下降してしまうことは明らかです。